



管内経済情勢報告

～中国地方の経済情勢について～

平成 29 年 10 月
財務省 中国財務局

【お問い合わせ先】

中国財務局経済調査課(森山、藤田)


電話番号 (082) 221-9221(代表)

(082) 223-3038(直通)

<http://chugoku.mof.go.jp/>

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復しつつある」









項目	前回（平成29年7月判断）	今回（平成29年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	

（注）平成29年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売、家電大型専門店販売が好調で、コンビニエンスストア販売や乗用車販売が堅調であるなど回復しつつある。生産活動は、輸送機械が高操業を維持し、化学が増加基調となるなど回復しつつある。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。

【各項目の判断】

項目	前回（平成29年7月判断）	今回（平成29年10月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	回復しつつある	
生産活動	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	
雇用情勢	着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている	着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている	
設備投資	平成29年度は前年度を上回る見通し	平成29年度は前年度を上回る見通し	
企業収益	平成29年度は減益見通し	平成29年度は増益見通し	
企業の景況感	「下降」超幅は拡大	「上昇」超に転じる	
住宅建設	前年を上回る	前年を下回る	
輸出	前年を上回る	前年を上回る	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果に支えられ回復していくことが期待される。ただし、海外経済等の不確実性やそれに伴う為替の動向などを注視していく必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店販売は、衣料品が低調であり前年を下回っている。スーパー販売は、衣料品が低調であるものの、食料品が堅調であり、おおむね横ばいとなっている。また、ドラッグストア販売は日用消耗品、家電大型専門店販売は高性能の家電が好調であり、コンビニエンスストア販売や乗用車販売は堅調に推移していることなどから、前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 衣料品は、相変わらずよくない。服を買うために百貨店を選ぶ消費者が減っているからだろう。(百貨店)
- 催事で販売する宝飾品や人気海外ブランドの化粧品が好調であるなど、消費者はニーズにあえば高額であっても購入意欲がある。(百貨店)
- 品質のよい生鮮食品など付加価値や満足度の高い商品には積極的な消費意欲がみられる。(スーパー)
- 惣菜やおでんなどの食料品、トイレトペーパーなどの日用消耗品が好調である。(コンビニエンスストア)
- まとめ洗いののできる大型洗濯機や高画質のテレビなどが好調である。(家電大型専門店)
- 自然素材のシャンプーや機能性の高い洗剤が売れるなど、品質を重視した商品の購入行動がみられる。(ドラッグストア)
- 価格が多少高くても、ハイブリッド車を選ぶなど満足度を重視する消費者が多い。(自動車販売)

■ 生産活動 「回復しつつある」

輸送機械は、自動車が国内外の需要が堅調であることなどから高操業を維持している。化学は、定期修理の影響はあるものの、リチウムイオン電池の部材原料などの需要増加を背景に増産に向けた動きとなっている。電気機械は、スマートフォンや自動車向けの電子部品・デバイスが堅調となっている。はん用・生産用・業務用機械は、自動車関連の生産用機械などの堅調な需要を受け増加している。鉄鋼は、自動車や建材向けに堅調な動きとなっている。このように、生産活動は、全体では回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 国内外ともSUVの人气が高く、国内の受注は堅調で、海外も北米向けを中心に伸びているなど堅調である。(自動車)
- 電気自動車市場の広がりに伴い、リチウムイオン電池の部材原料の生産がフル稼働となっている。(化学)
- スマートフォンの高機能化や自動車の電動化などに伴い、電子部品の生産が好調である。(電気機械)
- 国内や北米向けに自動車部品の工作機械、中国向けにスマートフォンなど電気機械関連の工作機械が好調である。(生産用機械)
- 国内の自動車向けの薄板が堅調であるほか、首都圏を中心に都市開発やホテル建設などが進んでいることから、形鋼も堅調である。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「着実に改善しており、人手不足感が一段と拡がっている」

有効求人倍率(平成29年6~8月)は1.72倍と、全国の1.52倍と比べ高水準で推移しているほか、新規求人数の増加などから新規求人倍率も上昇している。また、完全失業率も低水準で推移するなど、雇用情勢は、着実に改善しており、人手不足感が一段と拡がっている。

(参考) 広島県の賃金の動き

現金給与総額(名目賃金)は、平成29年7月で前年同月比1.5%と前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 現業系の女性社員の採用をすすめており、社員の子育てと着実なキャリア形成の両立をさらに支援するため、従業員向けの企業主導型保育所を開設することとした。平成30年4月の開園を目指している。(鉄鋼)
- 人材の確保を図るため、近隣のコンビニの時給よりも高めに設定しており、同程度の時給設定をしている大型小売店との待遇格差はないと認識している。(小売)
- 島しょ部の店舗で、従業員不足からレジ係を確保できず、やむを得ず定休日を設けることとなった。スーパーが定休日を設けることは、顧客離れにつながるため、人手不足が深刻化する中で定休日を作らない店舗運営を行っていくための対策が必要である。(小売)
- 人手が確保できないため、フランチャイズオーナーが事業継続は難しいとして、黒字店ではあるが閉店した店舗がある。(小売)

■ **設備投資** 「平成 29 年度は前年度を上回る見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 29 年 7~9 月期

- 製造業では、石油・石炭などで減少するものの、鉄鋼、自動車などで増加することから、全体では前年度を上回る見通しとなっている。
- 非製造業では、小売、学術研究・専門・技術サービスなどで増加するものの、運輸・郵便、卸売などで減少することから、全体では前年度を下回る見通しとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 自家発電設備の更新を行う。(鉄鋼)
- 前年度に行った物流センター建設の反動で減少する。(運輸・郵便)

■ **企業収益** 「平成 29 年度は増益見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 29 年 7~9 月期

- 製造業では、はん用機械、その他の輸送用機械などで減益となるものの、鉄鋼、生産用機械などで増益となることから、全体では増益見通しとなっている。
- 非製造業では、医療・教育、小売などで増益となるものの、建設、学術研究・専門・技術サービスなどで減益となることから、全体では減益見通しとなっている。

■ **企業の景況感** 「『上昇』超に転じる」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」平成 29 年 7~9 月期

- 企業の景況判断BSIは、「上昇」超に転じている。なお、先行きは「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回る」

- 新設住宅着工戸数で見ると、分譲住宅が増加しているものの、貸家などが減少していることから、前年を下回っている。

■ **輸出** 「前年を上回る」

- 管内通関実績(円ベース)で見ると、輸出は、船舶、一般機械などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジア、中南米などで増加している。

なお、輸入は、石炭、鉄鉱石などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジア、大洋州などで増加している。

3. 各都道府県の総括判断

	前回(平成 29 年 7 月判断)	今回(平成 29 年 10 月判断)	前回比較	総括判断の要点
鳥取県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	生産活動は持ち直しており、雇用情勢は着実に改善している。個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある。
島根県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動も回復しつつある。雇用情勢も改善しており、人手不足感が広がっている。
岡山県	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	➡	個人消費は、乗用車販売やドラッグストア販売、家電大型専門店販売等が引き続き堅調ななか、百貨店販売等も前年を上回るなど、緩やかに回復しつつある。生産活動は、鉄鋼で高操業が続いており、このところ化学で操業度を高めているほか、足下では自動車を持ち直しの動きがみられるなど、持ち直している。労働力需給は引き締まっており、人手不足感が一段と広がっている。
広島県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は回復しつつあり、生産活動も緩やかに回復しつつある。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。
山口県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は持ち直しており、雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が引き続き強い状況にある。

管内経済情勢報告

(平成29年10月)

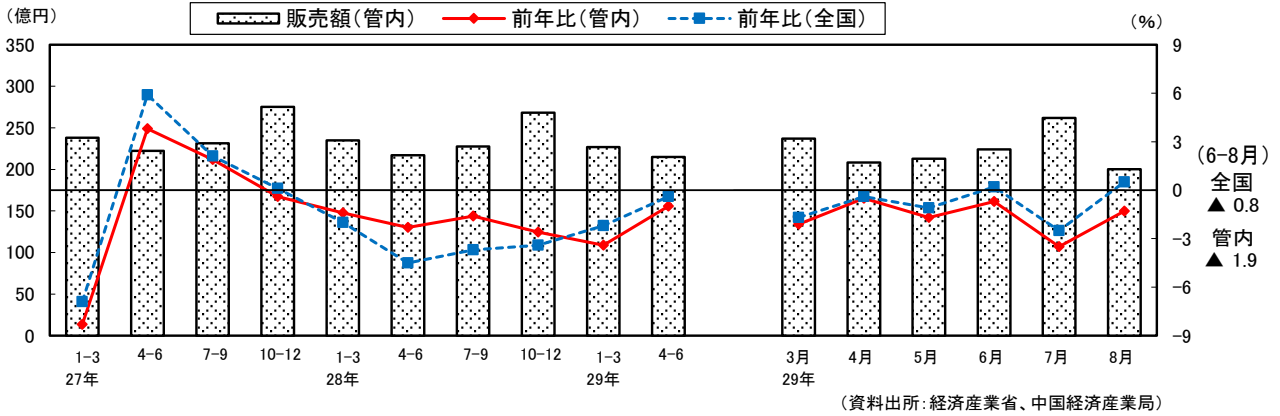
資料編

	目次	ページ
1.	個人消費	1
2.	生産活動	3
3.	雇用情勢	4
4.	設備投資	5
5.	企業収益	6
6.	企業の景況感	6
7.	住宅建設	6
8.	輸出	7

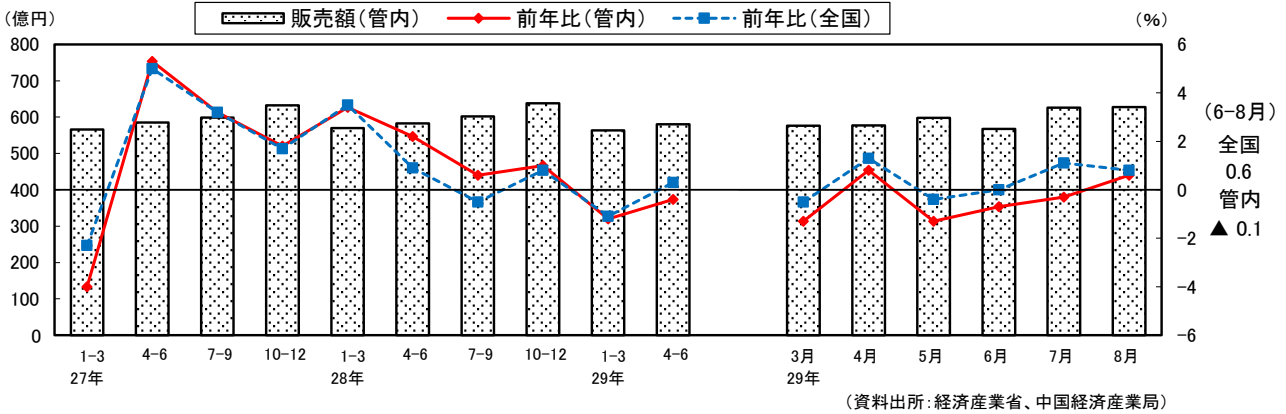
*上記の項目ごとに掲載しているグラフの枠外（右側）に記載している計数は、当該項目の状況を分析する上で参考とした前年比。（但し、生産活動は鉱工業生産指数及び前期比、雇用情勢は有効求人倍率を記入。）

1. 個人消費 回復しつつある

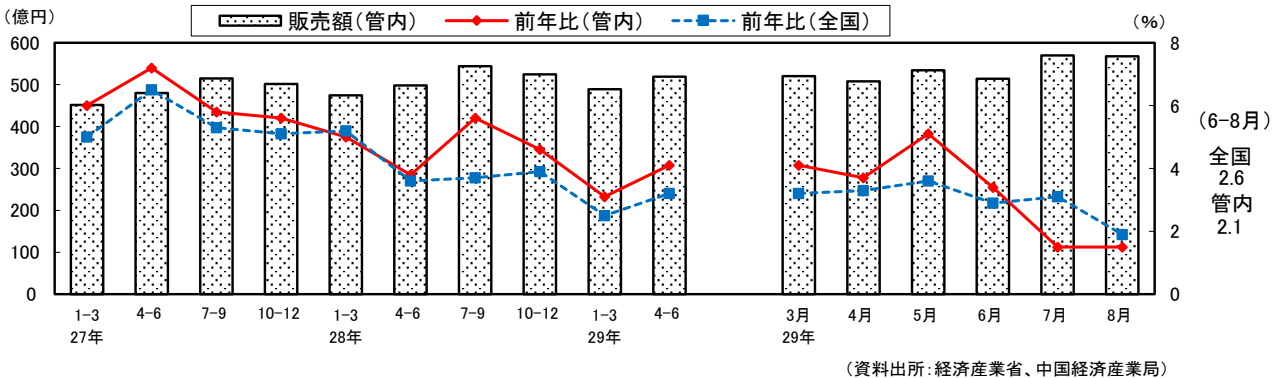
(1) 百貨店販売額(全店舗:前年比)



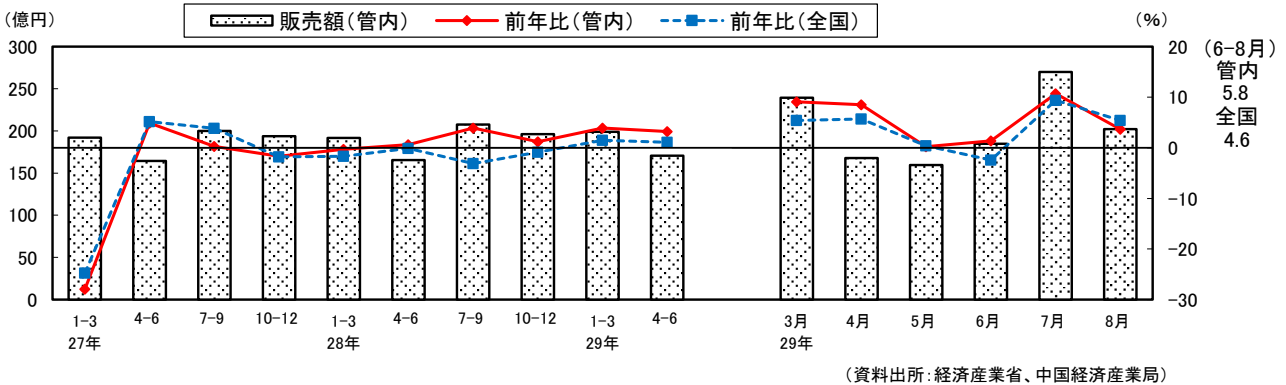
(2) スーパー販売額(全店舗:前年比)



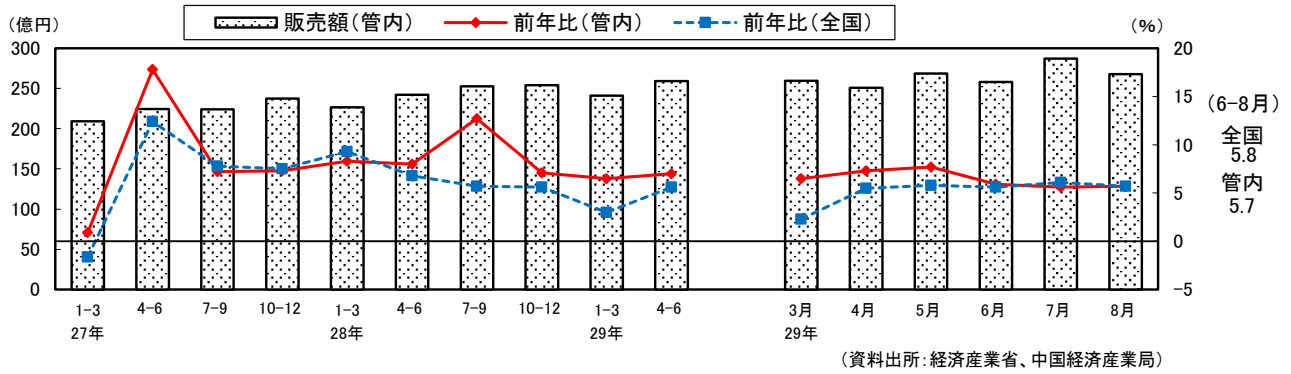
(3) コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



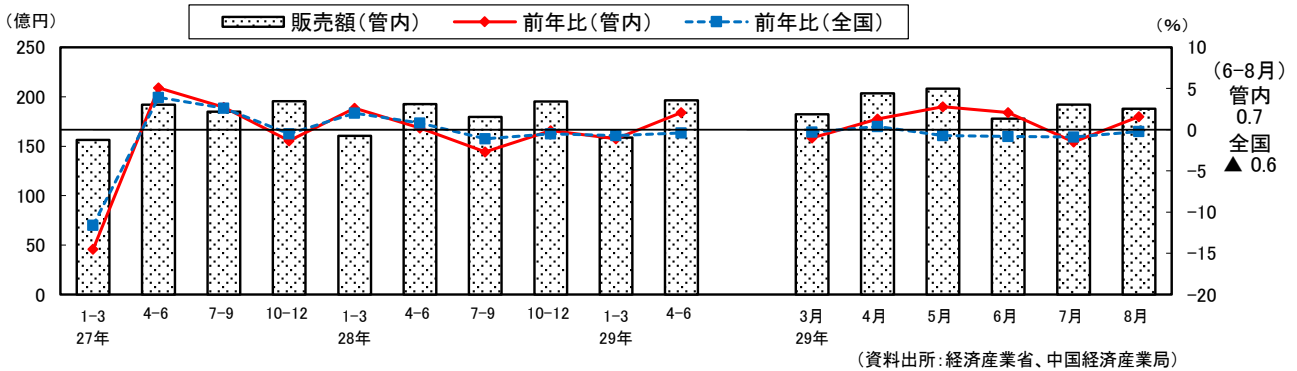
(4) 家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



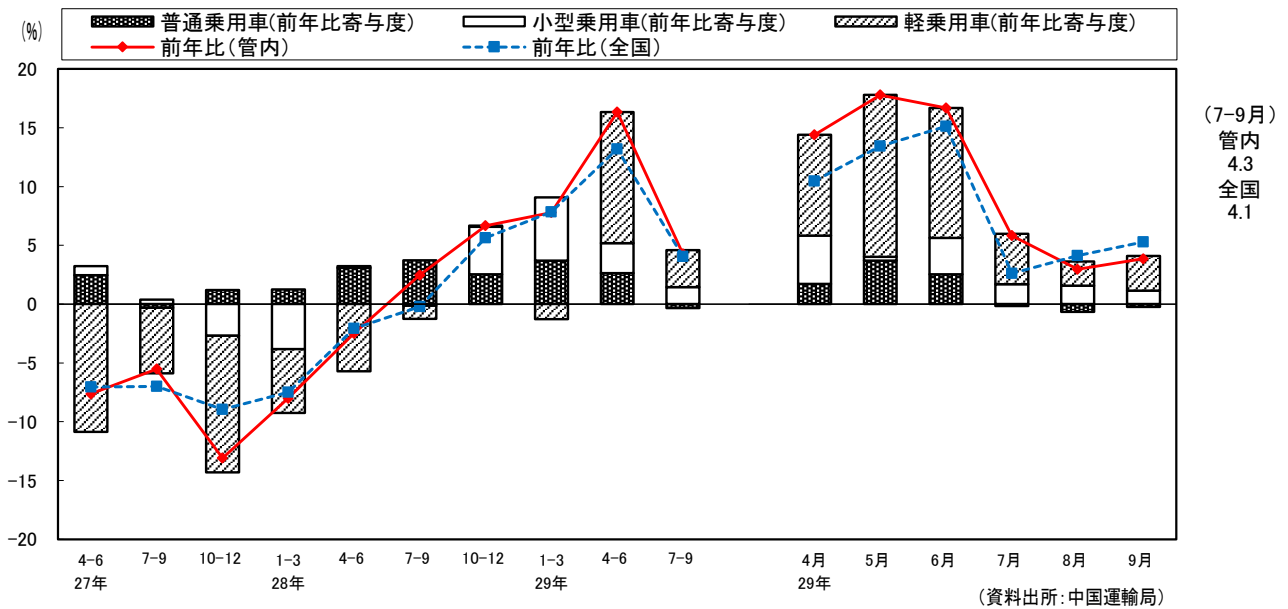
(5) ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)



(6) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



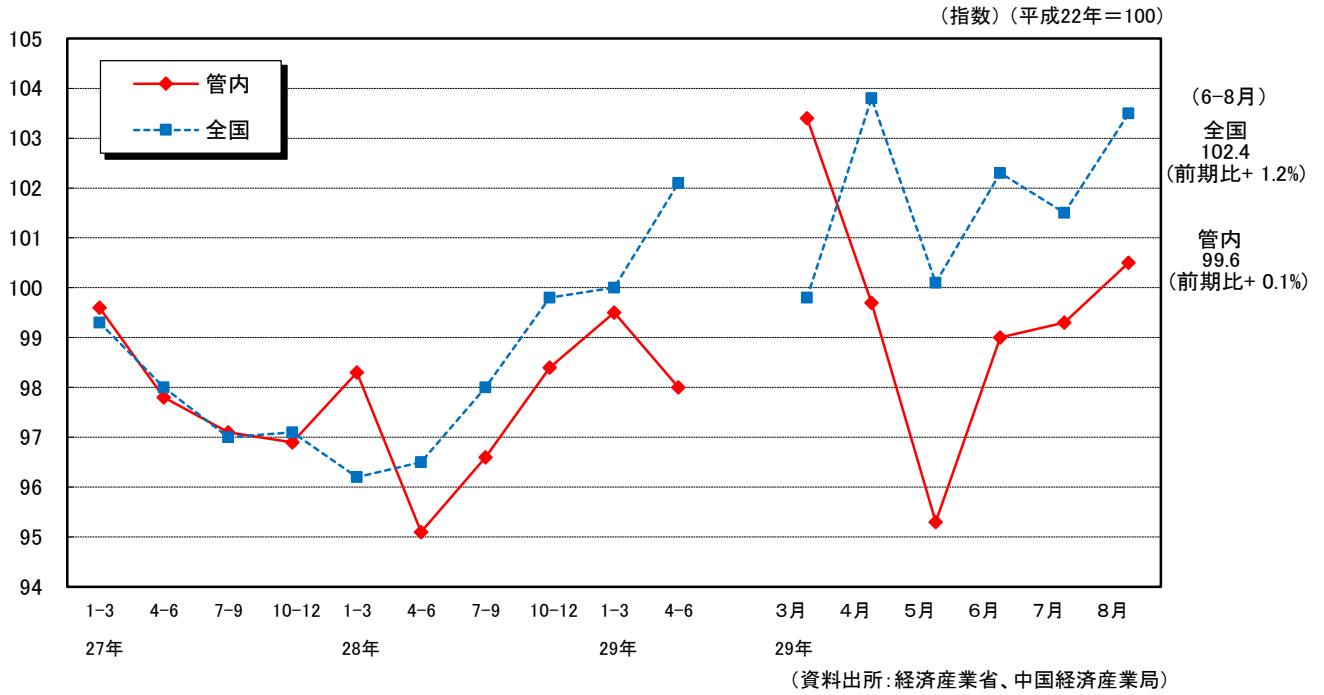
(7) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



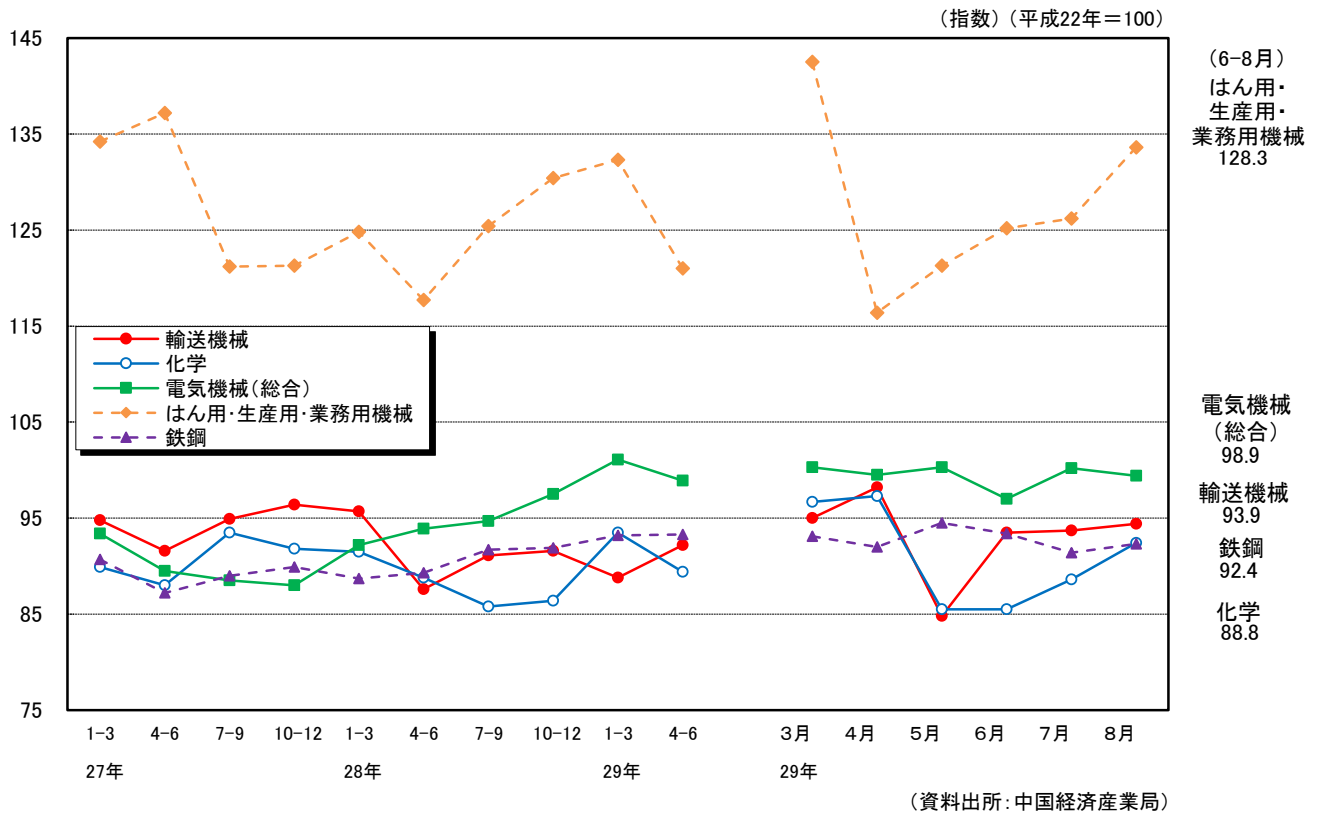
(注)(1)から(6)の各グラフの四半期毎の販売額は、1月あたりの平均を表示。

2. 生産活動 回復しつつある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整値)

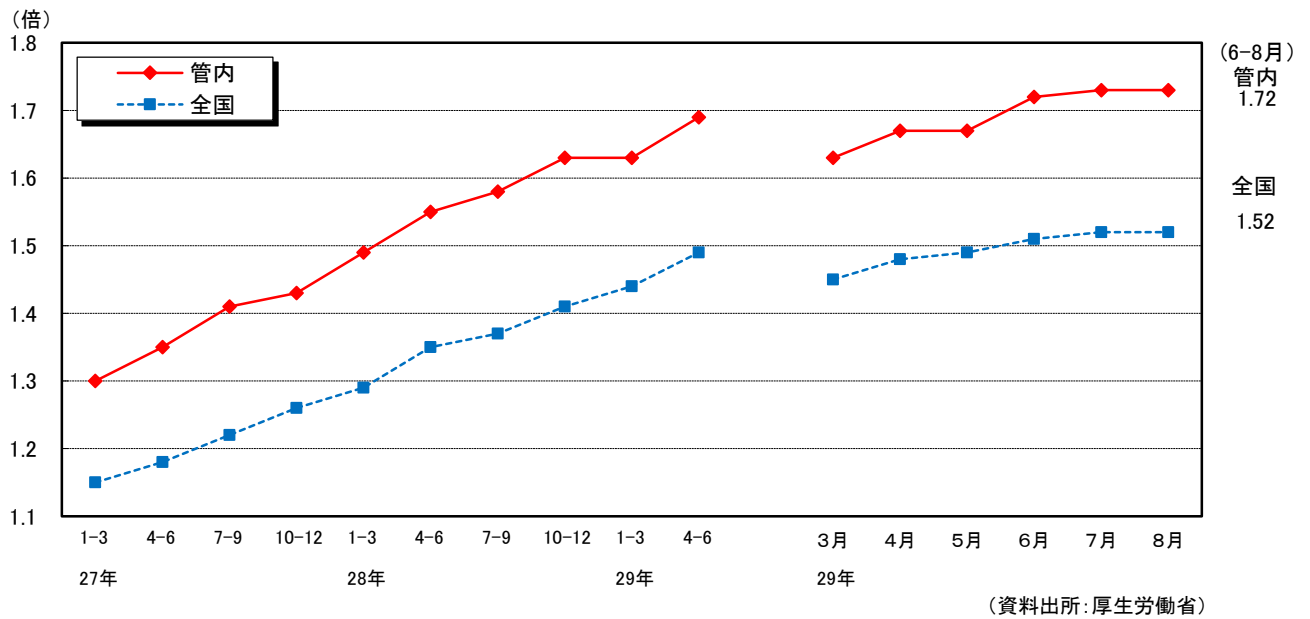


(2) 管内主要業種別生産指数(季節調整値)

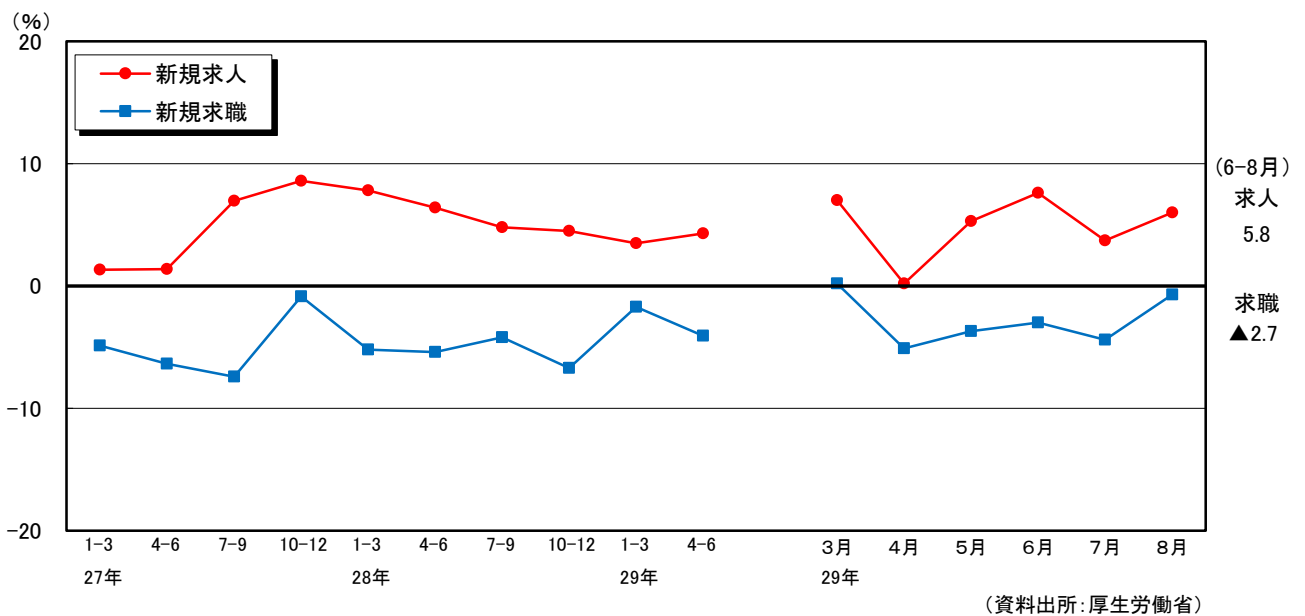


3. 雇用情勢 着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている

(1) 有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2) 新規求人数・求職者数(学卒を除く)の前年比



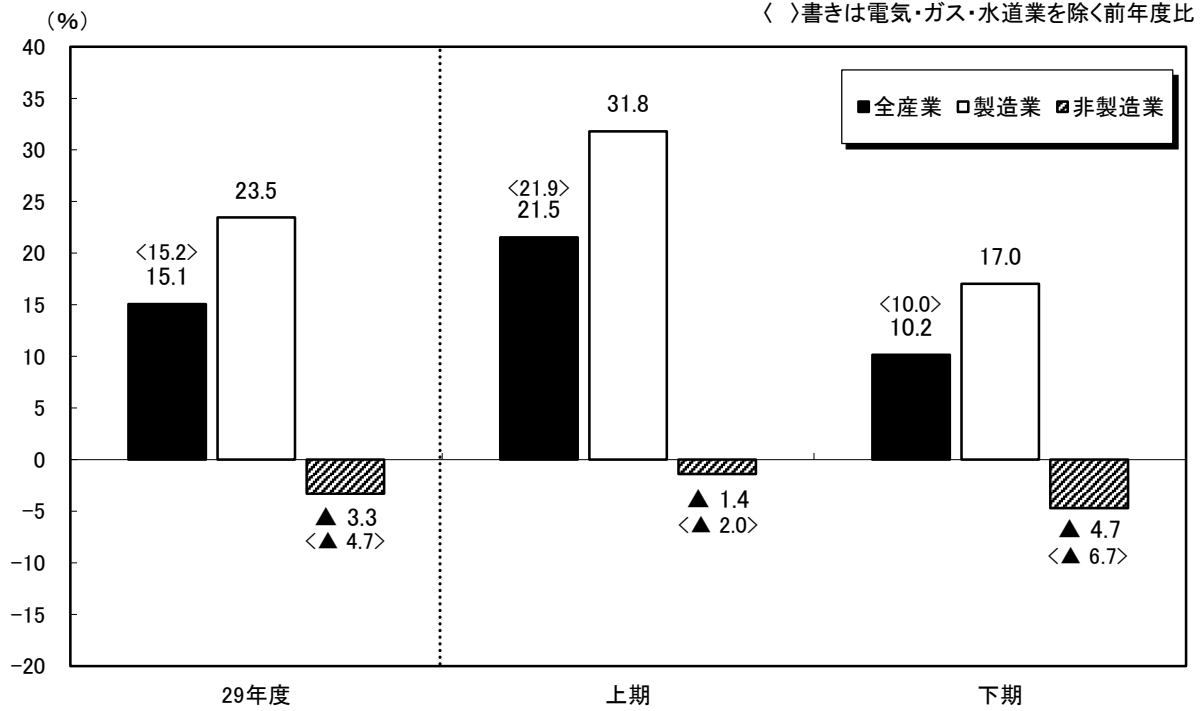
【参考】完全失業率(原数値)

区分	27年平均	28年平均	27.7~9	27.10~12	28.1~3	28.4~6	28.7~9	28.10~12	29.1~3	29.4~6
管内	3.2	2.8	3.5	2.9	2.9	2.9	3.2	2.3	2.5	2.7
全国	3.4	3.1	3.4	3.1	3.2	3.3	3.1	2.9	2.9	3.0

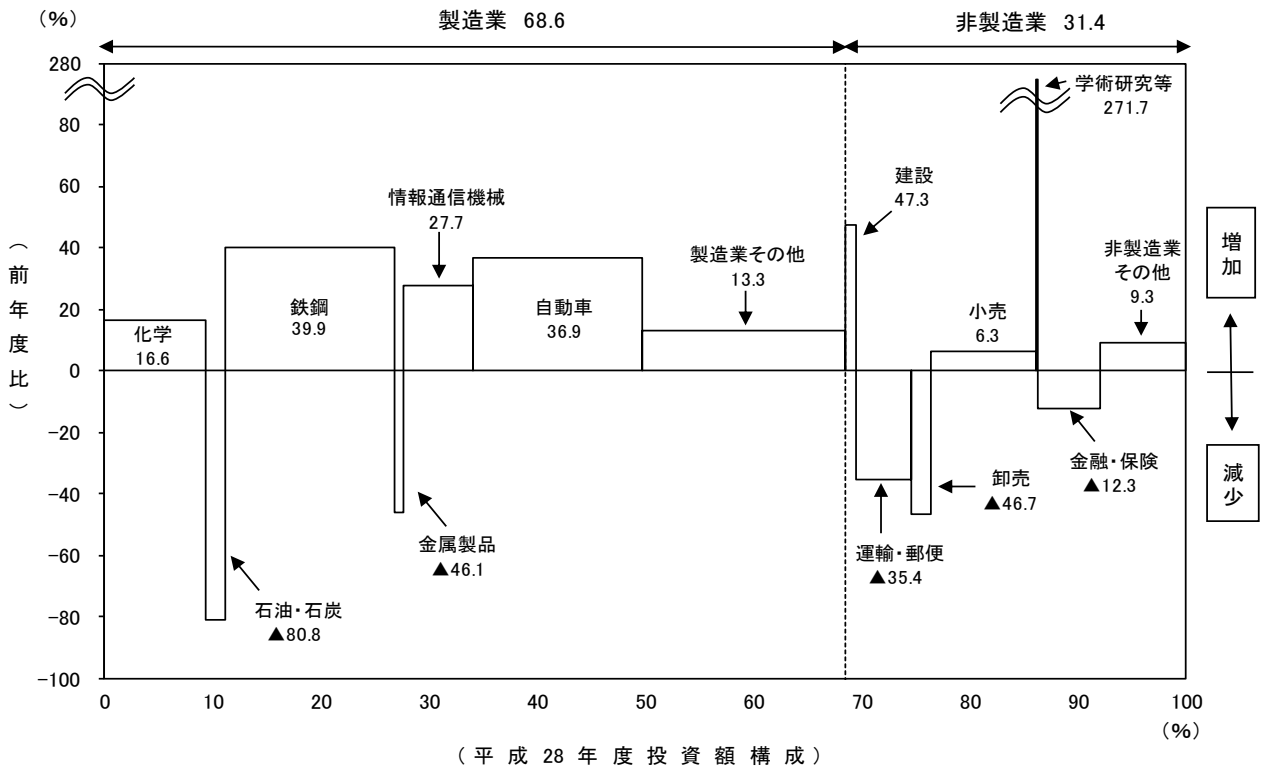
(資料出所:総務省)

4. 設備投資 平成29年度は前年度を上回る見通し

(1) 設備投資額(前年度(同期)比)

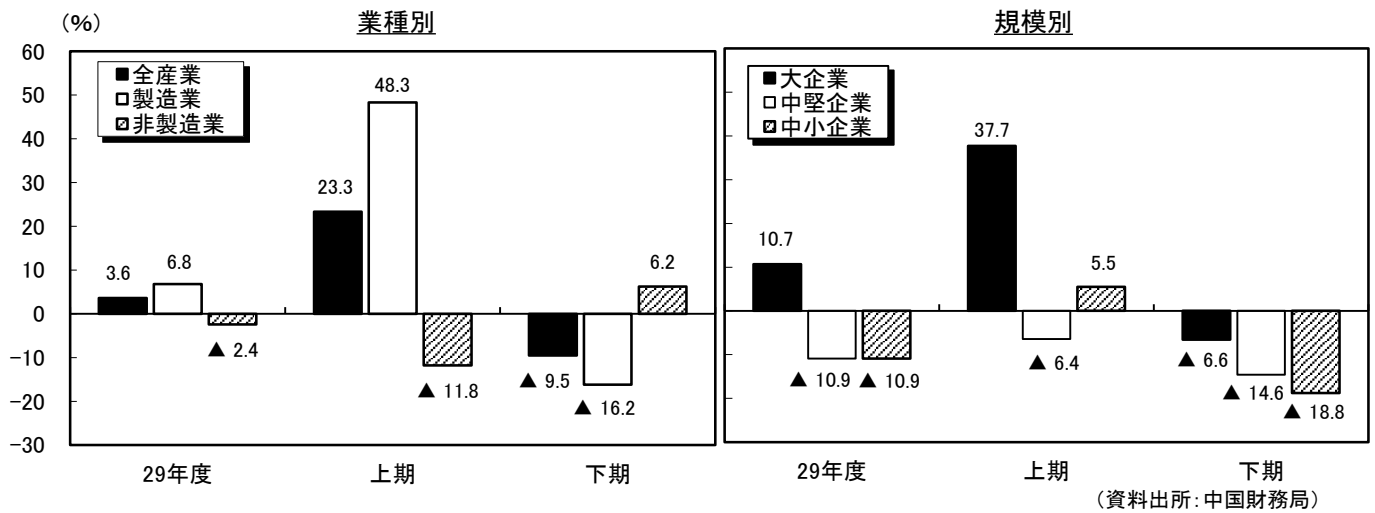


(2) 主要業種別(平成29年度)



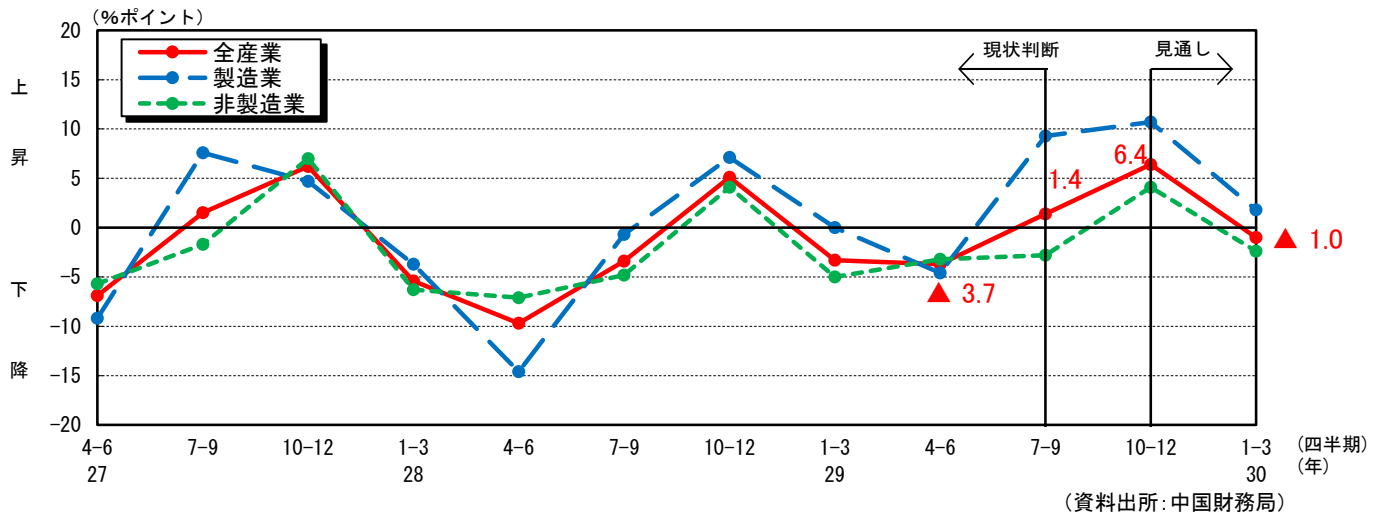
5. 企業収益 平成29年度は増益見通し

経常利益(電気・ガス・水道業、金融業、保険業を除く:前年度(同期)比)



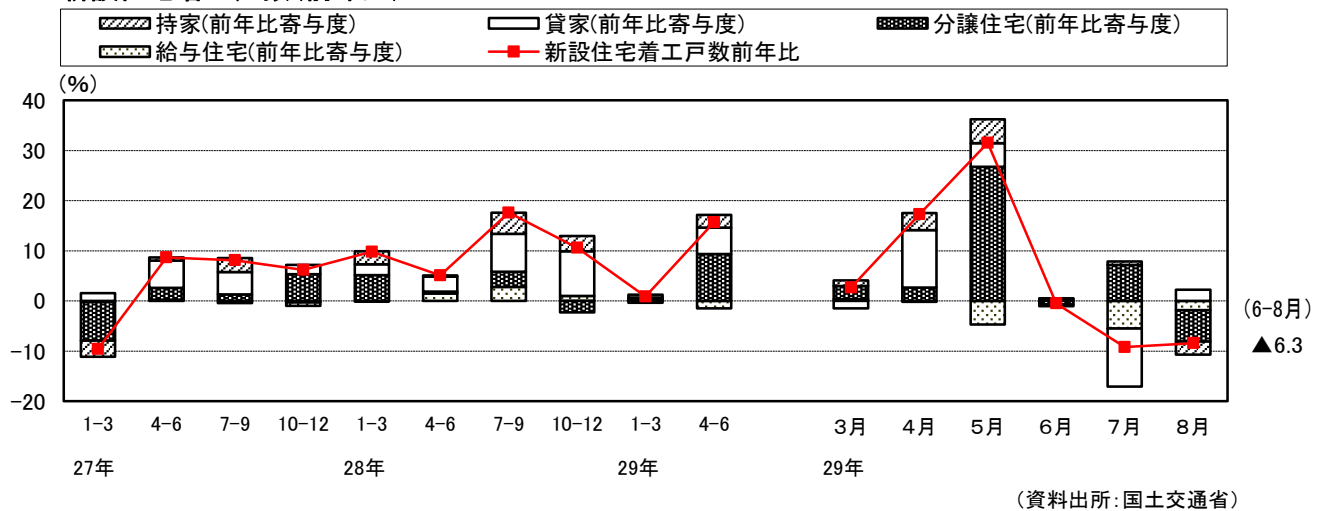
6. 企業の景況感 「上昇」超に転じる

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)



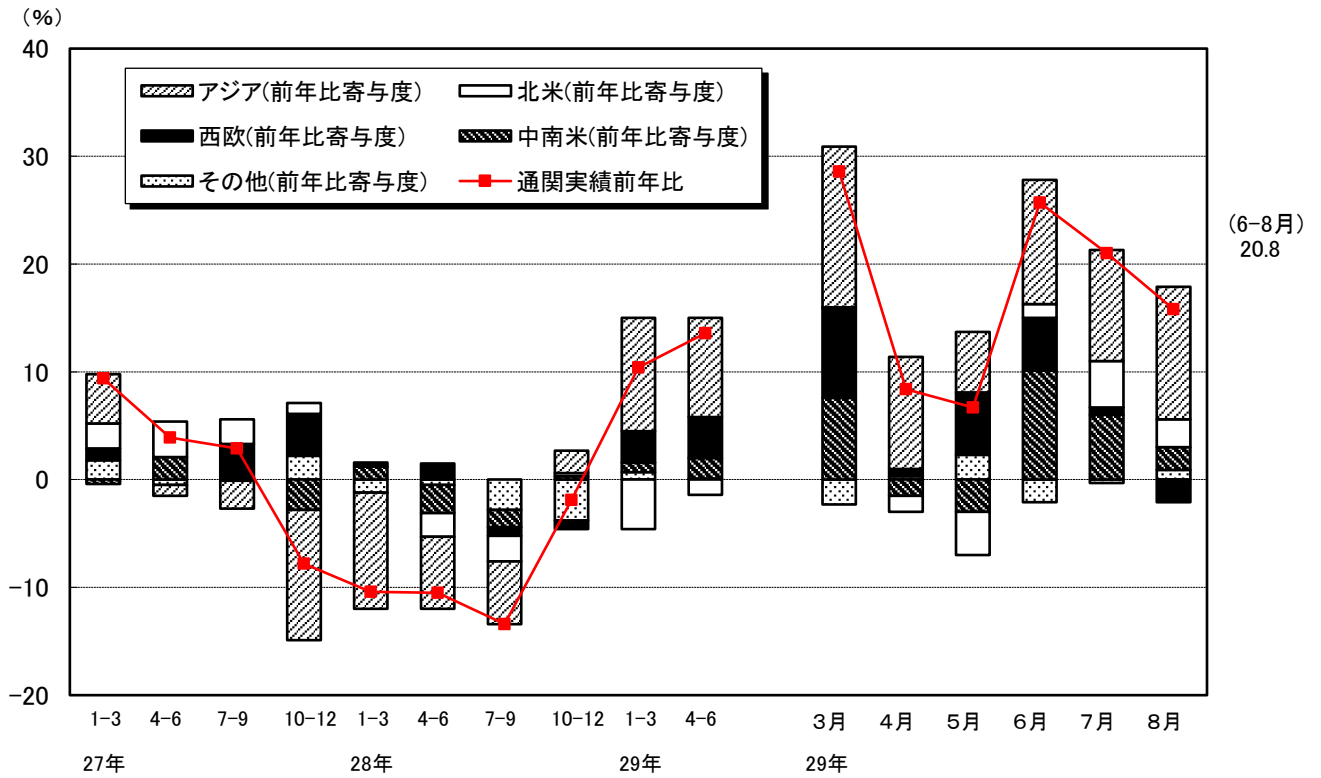
7. 住宅建設 前年を下回る

新設住宅着工戸数(前年比)



8. 輸出 前年を上回る

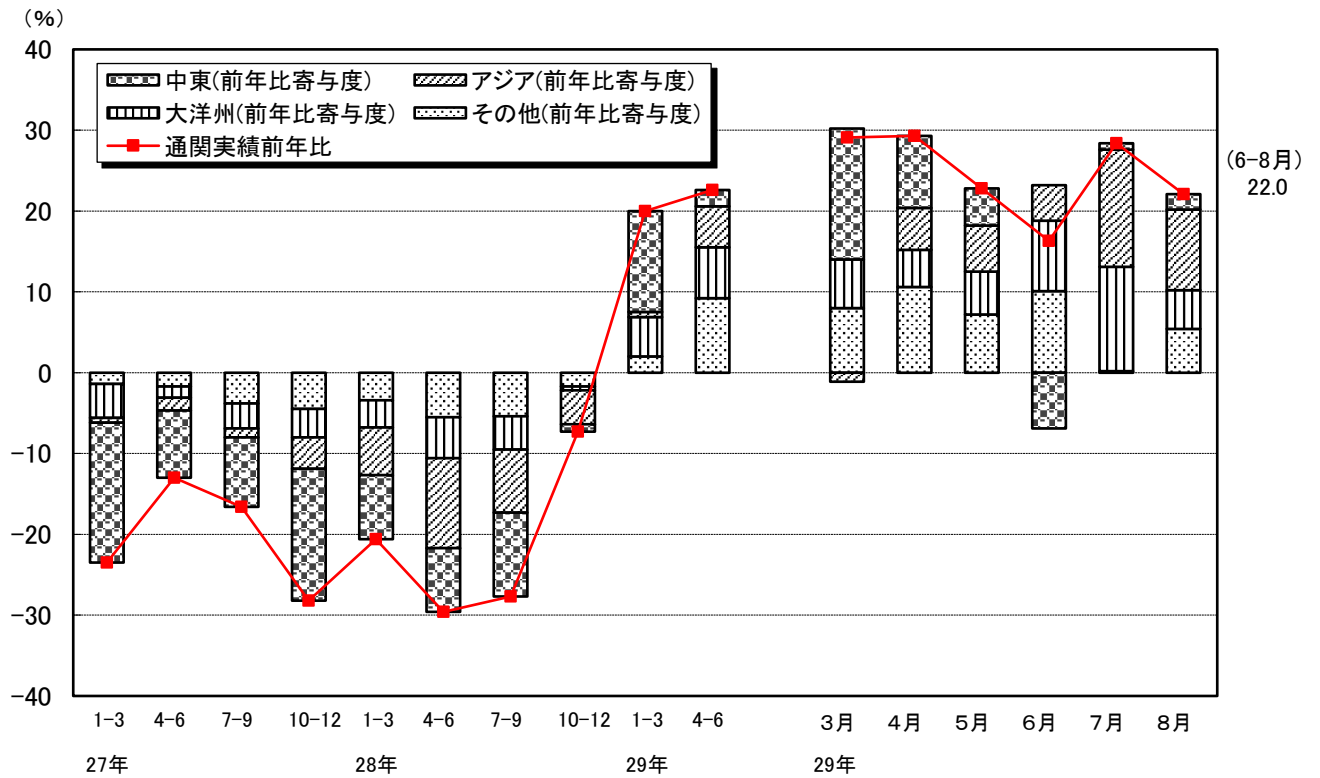
輸出(円ベース)



(資料出所: 神戸税関、門司税関)

<参考>

輸入(円ベース)



(資料出所: 神戸税関、門司税関)